



ADVANTEST[®]

2020年度（2021年3月期） 第3四半期決算説明会

2021年1月28日
株式会社アドバンテスト

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ご注意

会計基準について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている実績や見通し数値は、国際会計基準（IFRS）に基づいて作成しています。

将来の事象に係る記述に関する注意

- 本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、将来の事象についての、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれております。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているものまたは暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

本資料の利用について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、各国の著作権法、特許法、商標法、意匠法等の知的財産権法その他の法律及び各種条約で保護されています。事前に当社の文書による承諾を得ない限り、法律によって明示的に認められる範囲を超えて、これらの情報を使用（改変、複製、転用等）することを禁止します。



```
...mirror_object = ...  
operation == "MIRROR_X":  
mirror_mod.use_x = True  
mirror_mod.use_y = False  
mirror_mod.use_z = False  
operation == "MIRROR_Y":  
mirror_mod.use_x = False  
mirror_mod.use_y = True  
mirror_mod.use_z = False  
operation == "MIRROR_Z":  
mirror_mod.use_x = False  
mirror_mod.use_y = False  
mirror_mod.use_z = True  
  
selection at the end -add  
obj.select= 1  
obj.select= 1  
context.scene.objects.active  
obj.select= 1  
obj.select= 1
```

2020年度第3四半期決算報告

取締役 兼 常務執行役員 藤田 敦司

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ADVANTEST[®]

四半期業績推移

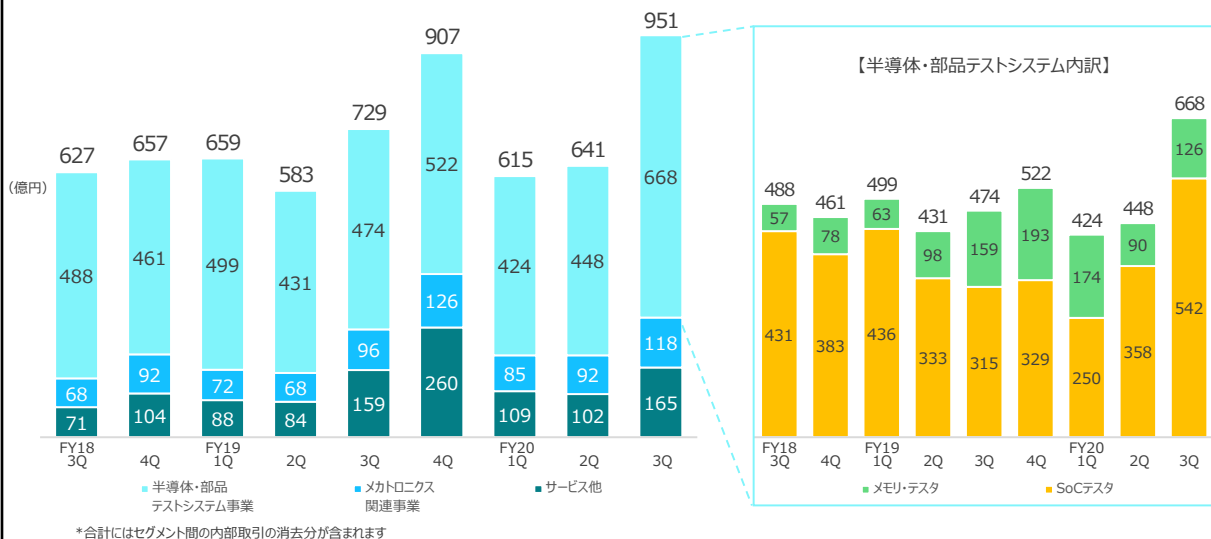
(億円)

	FY19				FY20				前期比		前年同期比	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	増減額	増減率	増減額	増減率	
受注高	659	583	729	907	615	641	951	+309	+48.2%	+221	+30.4%	
売上高	662	716	699	682	667	774	781	+7	+0.9%	+82	+11.7%	
売上総利益	394	410	394	367	380	416	402	-15	-3.6%	+8	+2.0%	
売上総利益率	59.5%	57.3%	56.4%	53.8%	56.9%	53.9%	51.5%	-2.4pts		-4.9pts		
営業利益	152	177	142	116	135	174	153	-22	-12.8%	+10	+6.9%	
営業利益率	22.9%	24.8%	20.4%	17.0%	20.2%	22.6%	19.5%	-3.1pts		-0.9pts		
税引前四半期利益	149	184	145	108	129	164	139	-26	-15.7%	-6	-4.4%	
四半期利益	121	147	119	148	106	139	120	-19	-13.7%	+1	+0.7%	
四半期利益率	18.3%	20.5%	17.1%	21.7%	15.8%	18.0%	15.4%	-2.6pts		-1.7pts		
M&Aに伴う受注残の増加				+42								
受注残	746	613	643	910	857	725	895	170	23.4%	+252	+39.2%	
為替レート	1米ドル	111円	108円	108円	110円	108円	107円	105円	2円 円高	3円 円高		
	1ユーロ	125円	121円	119円	121円	118円	123円	124円	1円 円安	5円 円安		

○ 2020年度第3四半期の業績概要

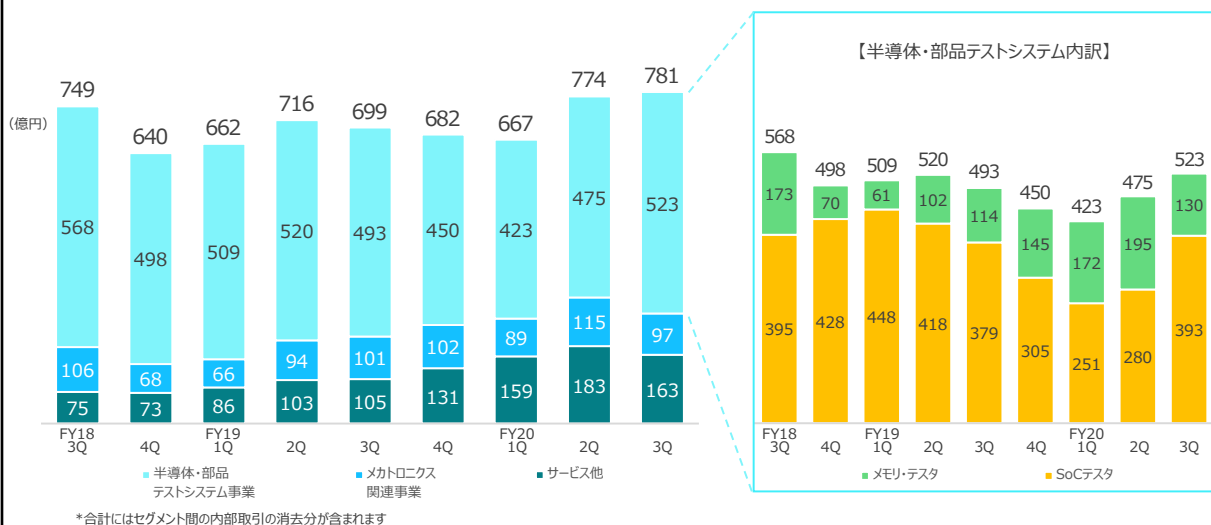
- まず、新型コロナウイルスが再び拡大傾向にある中で、当社ビジネスを継続して支えていただいている取引先様各位、関係各位、従業員各位に深謝いたします。
- お客様をもちまして、10月-12月期の業績は、10月時点の当社の予想を超える進捗となりました。
- ハイ・パフォーマンス・コンピューティング（HPC）関連、スマートフォン関連のSoC半導体のテスト需要が旺盛で、3か月前の予想よりも早いスピードで事業環境の改善が進展しました。
- そうした動きに支えられ、3QのSoCテスト受注および全社受注は過去最高の四半期受注高となりました。
- 売上、利益も想定以上の進捗です。
- 受注、売上、利益の詳細は、以降のスライドで順次ご説明いたします。

四半期受注高 事業セグメント別



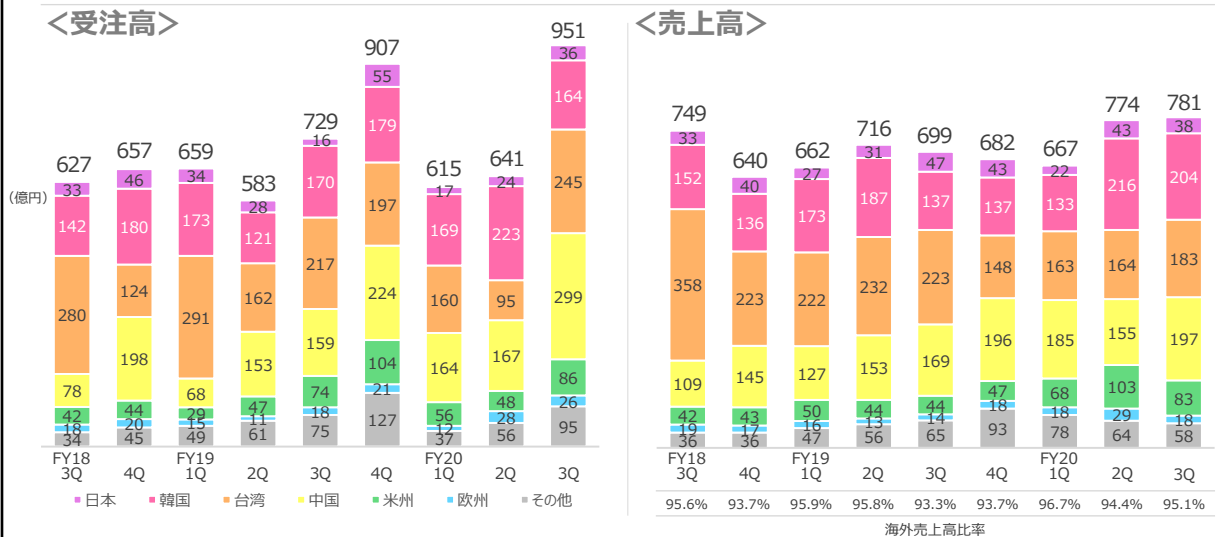
- 2020年度第3四半期の事業別受注高
- 半導体・部品テストシステム事業
 - ・ 前期比 49.3%増 668億円
 - ・ SoCテストは542億円と、前期比184億円の増加となりました。
 - ・ 牽引役はディスプレイ・ドライバーIC(DDI)です。5GスマートフォンでOLEDの採用が拡大していること、タッチセンサー組み込みが進んでいることが背景にあります。
 - ・ 5Gスマートフォン向けのアプリケーション・プロセッサも需要が想定より伸び、米中摩擦の影響で発生した余剰テストの消化を促し、新規投資につながりはじめました。
 - ・ メモリ・テストは中国プレイヤー向けが伸び、前期比36億円の増加でした。
- メカトロニクス関連事業
 - ・ 前期比 29.8%増 118億円
 - ・ EUV関連でナノテクノロジー製品の受注が増加しました。
- サービス他
 - ・ 前期比 61.8%増 165億円
 - ・ 年間保守契約更新の季節性の増加に加え、システムレベル・テスト関連の受注が伸びました。

四半期売上高 事業セグメント別



- 2020年度第3四半期の事業別売上高
- 半導体・部品テストシステム事業
 - ・ 前期比 9.8%増 523億円
 - ・ 内訳としては、SoCテストが393億円、メモリ・テストは130億円でした。
 - ・ SoCテストは、モバイル関連、中でもDDIやイメージ・センサが増収の牽引役となりました。
 - ・ メモリ・テストは2Qの受注が減少したことを受けての減収です。
- メカトロニクス関連事業
 - ・ 前期比 15.4%減 97億円
 - ・ メモリ・テストの販売減に連動して、テスト・ハンドラやデバイス・インタフェースの売上が落ちました。
- サービス他
 - ・ 前期比 11.0%減 163億円
 - ・ 上期に販売が強かったシステムレベル・テスト製品ですが、3Qは計画通りの推移です。

四半期受注高/売上高 地域(出荷先)別



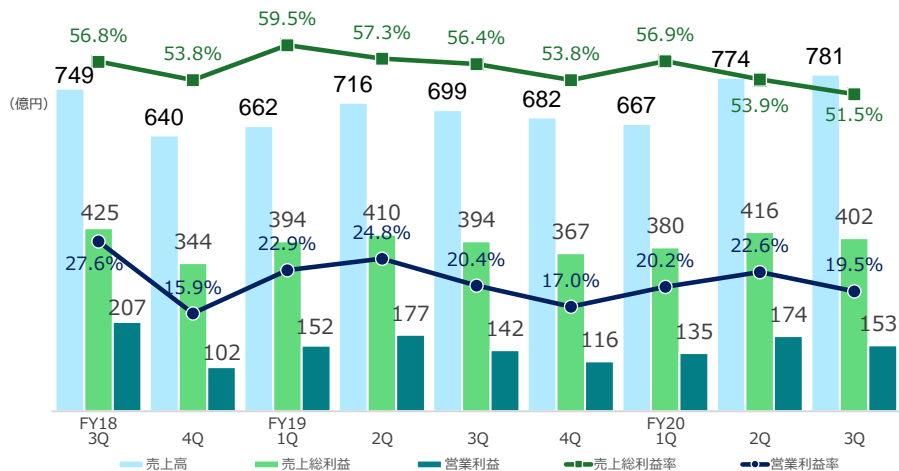
○ 2020年度第3四半期の地域別受注高

- 台湾、中国
DDIを中心に、スマートフォンに関連したSoCテストの引き合いが強まりました。
- 韓国
2QにSoCテストの受注が伸びた反動減がありました。

○ 2020年度第3四半期の地域別売上高

- 中国
DDI向けなど、SoCテストの販売が広がっています。
- 米州
システムレベル・テストの売上が一服しました。

売上高/売上総利益/営業利益

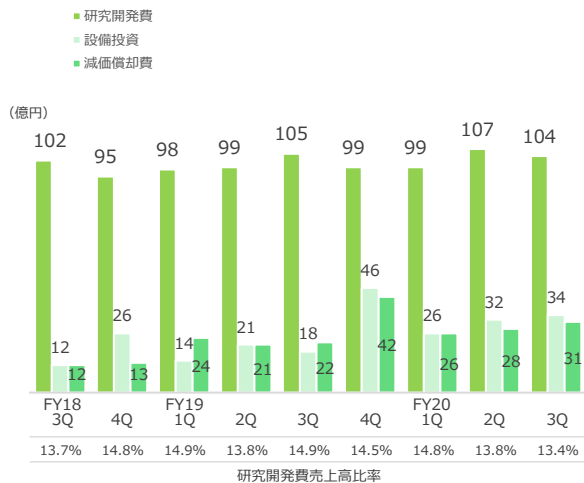


○ 2020年度第3四半期の営業利益

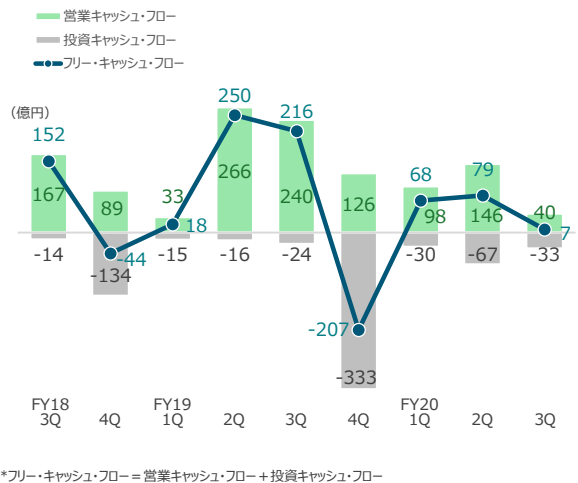
- 売上総利益率 51.5%
 前期と比べて好採算品の売上構成比が下がったこと、システムレベル・テストの3Q売上の一部に、新規製品の立ち上げに伴う費用の先行があり、落ち込みました。4Qでは改善を見込んでいます。
- 販管費（およびその他収益、費用を合算） 249億円
 販管費は前期比横ばいでした。
- 営業利益 153億円
- 営業利益率 19.5%

投資等/キャッシュ・フロー

<投資等>



<キャッシュ・フロー>



○ 2020年度第3四半期の研究開発費等

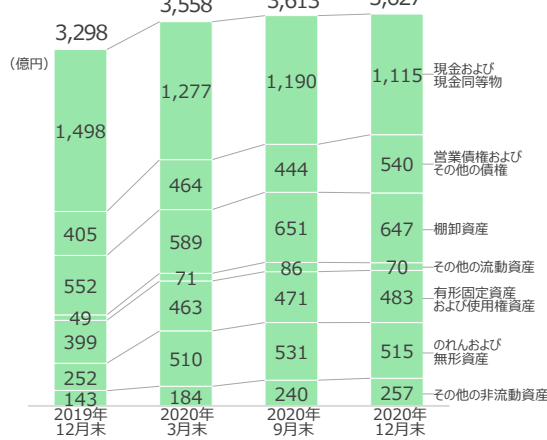
- 研究開発費 104億円
- 研究開発費売上高比率 13.4%
- 設備投資 34億円
- 減価償却費 31億円

○ 2020年度第3四半期のキャッシュ・フローの状況

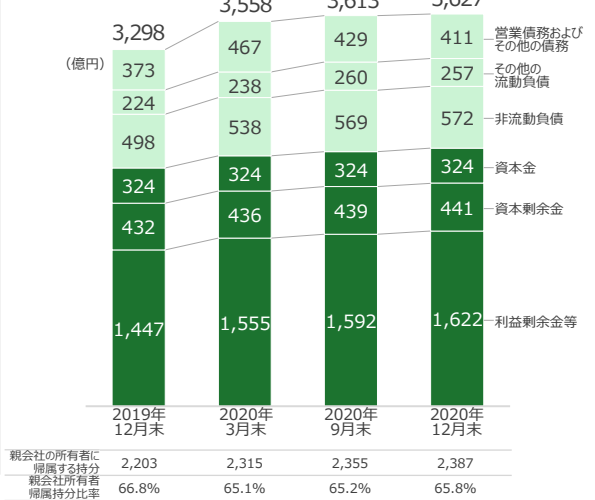
- フリー・キャッシュ・フロー 7億円
- 3Qは期末近くの売上が多かったことから、営業キャッシュ・フローが伸びませんでした。

連結財政状態

<資産の部>



<負債・資本の部>



○ 2020年12月末時点のバランス・シート

- ・ 総資産 3,627億円
- ・ 現金および現金同等物 前期比75億円減 1,115億円
- ・ 親会社の所有者に帰属する持分 2,387億円
- ・ 親会社所有者帰属持分比率 前期比0.6ポイント増 65.8%
- ・ 7月に発表した自己株式の取得が10月30日で完了しました。取得した自己株式総額は131億円、総数は249万株です。



2020年度事業見通し

代表取締役 兼 執行役員社長 吉田 芳明

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ADVANTEST[®]

半導体テスト市場の動向 <21年1月時点の見方>

CY20実績（暫定）

- SoCテスト市場：米中摩擦の影響を受けたが、5G/北米スマートフォン関連、HPC向けテスト需要が強く推移しオフセット
- メモリ・テスト市場：データセンター投資の伸び、WFH対応需要の立ち上がり、中国メモリ投資の拡大で、市場回復

CY21予想

- SoCテスト市場：半導体の進化と同期したテスト能力向上投資が市場を牽引する構図は不変。HPCや5Gスマートフォン向け先端プロセス品やディスプレイ・ドライバーIC(DDI)向けのテスト強化に期待
- メモリ・テスト市場：メモリの微細化、大容量化、高速化/広帯域化が引き続きテスト需要を拡大すると期待

	CY18実績	CY19実績	CY20実績（暫定）	CY21推定
SoCテスト市場	約\$2,550M	約\$2,700M	約\$2,800M (10月時点推定:「約\$2,700M」)	約\$2,800M-3,000M
メモリ・テスト市場	約\$1,150M	約\$650M	約\$1,100M (10月時点推定:「約\$1,000M」)	約\$1,100M-1,300M

○ テスタ市場の見方

- 米国による中国企業向けの規制強化に端を発した余剰テストキャパシティの存在が、テスト需要をかなり下押しする可能性を当社は半年前見ていました。
- しかしながら、HPCで堅調な需要が続いていること、北米スマートフォン関連の需要が想定より強く推移していること、中国スマートフォンメーカー間のシェア競争がいったん発生した余剰テストの急速な解消を促していること、これらの市場の変化を反映し、SoCテスト市場のCY20の推定を約\$2,800Mに引き上げます。
- 余剰テストの件については、OSAT投資はもう正常化したと表現してよい状況になっています。
- CY21も、先端プロセス採用品が増加する5GスマートフォンやHPC、高機能化が進むディスプレイ・ドライバーICを中心に、広い範囲でSoCテスト需要が伸びていくと見込んでいます。
- メモリ・テスト市場は、当社の実績を踏まえ、CY20は約\$1,100Mと推定しています。CY21もメモリの微細化、大容量化、高速化/広帯域化がテスト需要の拡大を促す流れと見込んでいます。
- コロナウイルス感染拡大の影響には、今後も注意が必要な状況が続きます。変化する市場で機敏に対応し、マーケットシェアの維持・拡大に取り組みます。

FY20業績予想

(億円)

	FY19		FY20				前年度比		(参考)新旧予想比較	
	実績	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q予想	通期予想	増減額	増減率	10月時点 FY20予想	修正額
受注高	2,878	615	641	951	893	3,100	+222	+7.7%	2,600	+500
売上高*1	2,759	667	774	781	828	3,050	+291	+10.5%	2,750	+300
営業利益	587	135	174	153	208	670	+83	+14.1%	525	+145
営業利益率	21.3%	20.2%	22.6%	19.5%	25.1%	22.0%	+0.7pts		19.1%	+2.9pts
税引前利益	586	129	164	139	208	640	+54	+9.3%	509	+131
当期利益	535	106	139	120	250	615	+80	+14.9%	425	+190
当期利益率	19.4%	15.8%	18.0%	15.4%	30.2%	20.2%	+0.8pts		15.5%	+4.7pts
受注残	910	857	725	895	960	960	+50	+5.5%	760	+200
研究開発費	401	99	107	104	110	420	+19	+4.7%	410	+10
設備投資	99	26	32	34	38	130	+31	+31.3%	120	+10
減価償却費	109	26	28	31	30	115	+6	+5.5%	110	+5
為替レート*2										
1米ドル	109円	108円	107円	105円	105円	106円	3円 円高		106円	-
1ユーロ	121円	118円	123円	124円	125円	122円	1円 円安		120円	2円 円安

*1:合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

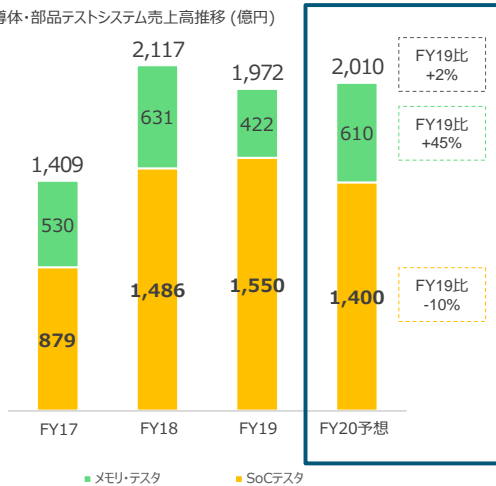
*2:為替レート変動が当社のFY20営業利益に与える影響の最新見通しは、対米ドルが1円安時+7億円です。対ユーロは-1.5億円です

○ 2020年度の業績予想

- 3Qまでの実績と4Qの予想を踏まえ、今年度の業績予想を再度上方修正します。
- 通期予想は10月時点の予想から、受注で500億円、売上は300億円引き上げ、過去最高となる3,000億円台の受注・売上を目指します。
- 営業利益は145億円、当期利益は190億円、それぞれ10月時点の予想から引き上げます。
- また4Qの四半期利益予想には、将来の減税効果を見込んだ繰延税金資産の計上を考慮しています。
- これまでの実効税率は繰越欠損金による減税効果で低水準でしたが、今年度で繰越欠損金の残高は無くなる見込みです。来期以降の実効税率は20%台半ばになると見込んでいます。
- 通期予想の為替前提については、米ドルは106円、ユーロは122円です。
- 通期の売上総利益率は54%程度と前回から見方を変えておりません。
- 欧州子会社での年金制度改定に伴い、4Qの営業利益予想に清算益およそ25Mユーロが織り込まれています。
- 期末配当は57円を予想しています。中間配当実績38円と合わせ年間95円、2019年度比でプラス13円の配当となる見通しです。

FY20見通し（事業別）

半導体・部品テストシステム売上高推移（億円）



半導体・部品テストシステム事業

<SoCテスト>（10月予想比 +230億円）

–スマートフォンプレーヤー間の競争が、アプリケーション・プロセッサ(APU)やDDIなど関連するSoC半導体のテスト需要を押し上げ。今年度の売上予想を大幅修正

–DDIはディスプレイパネル高機能化に伴うタッチセンサー組み込み対応需要も増加

–4QもHPC/5Gスマートフォン関連中心の展開を想定

【現中計における売上拡大への取り組み進捗（予想）】

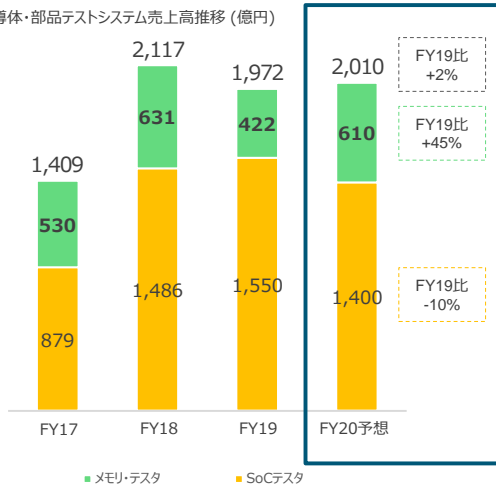
	FY15-17 平均	FY18-20 平均	増減率
SoCテスト	791億円	1,479億円	+87%
メモリ・テスト	353億円	554億円	+57%
合計	1,142億円	2,033億円	+78%

○ SoCテスト事業の今期見通し

- SoCテストの通期売上予想を、10月時点から230億円プラスし、1,400億円とします。
- HPC向けのテスト需要の底堅さに加えて、スマートフォン関連でテスト投資が足元活発に動いており、4Qも良好な環境が続く見通しです。
- CY21に向けて、足元活況なスマートフォンやHPCおよびDDI、アナログなど広い範囲でテスト需要が伸びていく期待があります。今後のSoCテスト需要拡大に備え、供給体制の整備を進めています。

FY20見通し（事業別）

半導体・部品テストシステム売上高推移（億円）



半導体・部品テストシステム事業

<メモリ・テスト> (10月予想比 +40億円)

–データセンターの投資に連動したサーバー用メモリ需要や、ゲーム機器用の高性能メモリ向けテスト需要が当社の売上を牽引中

–中国顧客の量産設備投資も堅調に推移

–4Qは、DRAM、不揮発性メモリともに堅調な引き合いを見込む

【現中計における売上拡大への取り組み進捗（予想）】

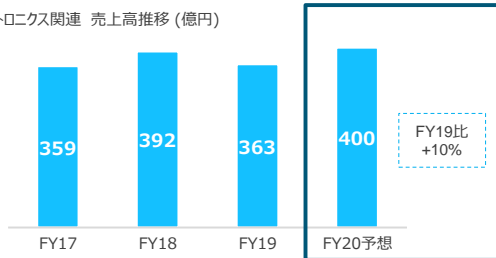
	FY15-17 平均	FY18-20 平均	増減率
SoCテスト	791億円	1,479億円	+87%
メモリ・テスト	353億円	554億円	+57%
合計	1,142億円	2,033億円	+78%

○ メモリ・テスト事業の今期見通し

- メモリ・テストに関しては、データセンター投資に連動したサーバー用メモリ需要の伸びに支えられ、前年度を上回る売上水準で推移しています。
- この下期に中国メモリメーカーの投資確度が増したことを踏まえ、こちらも上方修正します。
- 市場見通しでご説明したとおり、業界ではメモリの微細化、大容量化、高速化／広帯域化が進行しています。加えてメモリメーカーの増産意欲も現状前向きで、DRAM、NANDともに当社テストへの堅調な引き合いを4Qに見込んでいます。

FY20見通し（事業別）

メカトロニクス関連 売上高推移（億円）



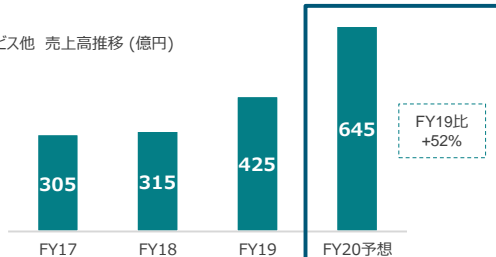
メカトロニクス関連事業（10月予想比 +20億円）

–メモリ・テストと連動性の高いインタフェース製品が伸長

【現中計における売上拡大への取り組み進捗（予想）】

	FY15-17 平均	FY18-20 平均	増減率
メカトロニクス関連	309億円	385億円	+25%

サービス他 売上高推移（億円）



サービス他事業（10月予想比 +15億円）

–Essai社の連結効果に加え、システムレベル・テスト事業が一般的に好調に推移、前年度比大幅増収を見込む

–フィールド・サービス事業も設置台数の増加で底堅く推移

【現中計における売上拡大への取り組み進捗（予想）】

	FY15-17 平均	FY18-20 平均	増減率
サービス他	300億円	462億円	+54%

○ メカトロニクス関連、サービス他事業の今期見通し

- メカトロニクス関連事業については、メモリ・テストの上方修正に沿って、今期予想を20億円引き上げ、400億円の売上高を予想します。
- サービス他事業については、システムレベル・テスト製品が想定より好調に推移した分を織り込み、セグメントの売上高を645億円と、予想を15億円引き上げます。
- データセンター投資の活発化やスマートフォン高性能化を背景にした、SoC関連のシステムレベル・テスト製品の需要増によるものです。

サマリー

- CY20はコロナ禍にあってもWFH関連需要やデータセンター投資の活発化、およびスマートフォン向け半導体などでの高性能化の持続がテスト市場を牽引
- 米中対立で生じたスマートフォン関連サプライチェーンにおける余剰設備消化は3Qで概ね完了
- 環境好転に伴い通期受注予想を500億円、売上予想を300億円引き上げ、過去最高の受注高・売上高を目指す。現中計の計数目標はすべて達成見通し
- コロナ禍の収束時期や世界経済の回復時期は不透明ながらも、CY21もテスト市場の拡大を見込む
- 移動制限や工場操業低下による調達・生産への影響を注視、製品とサービスの提供が滞らないよう徹底

○ サマリー

- CY20は、年初からの新型コロナウイルス感染拡大が、世界経済を下押ししていますが、生活変容は半導体需要を押し上げる面もありました。WFH関連需要、データセンター投資の活発化や、スマートフォン向けをはじめとする半導体のたゆまぬ高性能化が、半導体テスト市場を拡大させました。
- 米中摩擦の激化で夏場に懸念したSoCテストの余剰キャパ問題は、スマートフォンメーカー間の活発な競争がサプライチェーンの再構築を速め、当社想定を上回る速度で解消しました。5Gの本格化はこれからであり、今後も堅調な伸びが期待できると考えています。
- 計画を上回った3Q実績、4Q見通しの改善を踏まえ、通期の受注予想を500億円、売上予想を300億円引き上げます。受注、売上ともに当社では初めて3,000億円台になります。現中計の計数目標はすべてクリアできる見込みが立ちました。
- コロナ禍の収束にはまだ時間がかかりそうで世界経済の回復を見通すのは難しい状況ですが、高水準な半導体需要と積極的な高性能化は継続すると見込まれ、CY21もSoC、メモリ双方でテスト需要が拡大すると見込みます。来年度からの次期中計は現在策定中ですが、初年度はよいスタートを期待できそうです。
- コロナウイルスの感染拡大が移動制限や各地の工場操業に影響するリスクは高いままです。顧客の需要増に応じるための部材調達や生産体制が影響を受ける可能性があります。当社グループ従業員の健康にも配慮しつつ、顧客への製品・サービスの供給が途切れないよう慎重に対応してまいります。

ESG・外部評価関連トピックス

統合報告書2020発行



再生可能エネルギーの国際イニシアチブ「RE100」に加盟

中国子会社が「美世卓越健康雇主」の優秀実践賞を受賞

コーポレートガバナンス・オブ・ザ・イヤー®*2020 Winner Companyを受賞

RE100

CLIMATE GROUP

CDP



Corporate Governance of The Year

18 | ADVANTEST

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

*「コーポレートガバナンス・オブ・ザ・イヤー」は日本取締役協会の登録商標です

○ ESG/外部評価関連トピックス

- 8月以降の当社ESG・外部評価関連トピックスをご参考として掲載しましたので、ご覧ください。
- 世界中でコロナウイルス感染拡大に向き合う、医療関係者の負担が増加する状況が続いています。ライフラインを保つための活動の一助となるよう、各国グループ会社で寄付を実施しています。
- 最後になりますが、コロナ感染拡大の中、日々奮闘されている医療関係者の方々、生産体制を支えて下さるサプライヤーの皆様に感謝申し上げます。
- また、2020年はめまぐるしく事業環境が変わりました。その中で変化に対応して好業績をあげられるのは、グローバルに連携しながら着実に業務を遂行している全グループ社員の努力の結果であります。従業員と、それを支えているご家族の方々に、改めて感謝申し上げます。